

# おおはまのぶもと 大濱信泉氏に学ぶ



石垣市教育委員会  
教育長 石垣 安志 氏

「人の価値は生まれた場所によって決まるものではない。いかに努力し自分を磨くかによって決まるものがある。」

これは、わが石垣島の偉人、大濱信泉（早稲田大学第七代総長）の言葉であり、市内全小中学校の教室に掲げられている。信泉氏は、幾多の困難を乗り越え、学問で自らの人生の道を切り開き、日本の教育の発展や沖縄の日本復帰、その後の発展に大きく貢献した。

さて、本市教育委員会では、「未来の担い手を育てる」「一人一人の個性を育てる」の二本の柱を中心に、幅広い分野で将来を見据えた施策を推進している。特に、学校教育においては、「幼児児童生徒一人一人の『確かな学力』を向上させ、『生きる力』を育む」を目標に、「授業改



善」と「学びに向かう学校づくり」を基本方針とし、学力向上の推進を図っている。

そこで、信泉氏の意志を引き継ぎ、『信泉プロジェクト』と称した事業を昨年度から実施している。石垣市内全小中学校教職員を一堂に会した「石垣市教職員研修会」や「教科を越えた授業改善研修会」、子供たちの意欲を高めるための「算数・数学フェスティバル」、「学びに向かう学校づくり（生徒フォーラム）」など、教職員、児童生徒たちが主体的に参加し、学び、高め合う取り組みで

ある。

ついでには、地理的ハンディや逆境等をはね返す強い精神力、自分の志した道に、夢や希望をもって突き進んでいく行動力、常にふるさとのことを想う郷土愛にあふれた信泉氏の生き方は、予測困難な時代と言われる社会を生き抜く子供たちにとって、身近なロールモデルとなろう。

結びに、学校・家庭・地域・教育行政が一体となり、第二、第三の信泉を、いや、信泉氏を越える人材育成を図っていききたい。

(いしがき やすし)

## 教育随想



令和元年11月1日

# 11月号

発行・編集  
岡崎市教育委員会

### 今月の紙面

- 教育随想…………… 1  
石垣市教育委員会  
教育長 石垣 安志 氏
- この人に聞く…………… 2  
トヨタ自動車スケート部監督  
寺尾 悟 氏
- 羅針盤…………… 2  
生徒指導指導員  
河合 和広
- ふれあい…………… 3  
藤川小学校  
教諭 高木あゆ美
- 特集…………… 4  
子供・家族・地域をつなぐ  
「こども食堂」
- お知らせ…………… 6
- フォト・ヒストリー… 8  
甲山文学碑(昭和56年)
- この本を…………… 8

# この人に聞く



## スポーツとともに

トヨタ自動車スケート部監督  
寺尾 悟 氏

豊田市内に生まれ、足助で育った寺尾氏は、小学三年生のとき、香嵐溪のスケートリンクでスケートを始めた。

「高校生の頃に、オリンピックの正式種目に採用されたショートトラックを初めてテレビで見ても、自分も出場したいと思い、スケートに集中しました。大学でもスケートに打ち込みましたが、スケートを言い訳に学業をおろそかにしたくなかったので、勉強もしっかりとやりました。」  
大学卒業後、企業に入社してからもスケートと勤務先の仕事を両立させ、全日本選手権で優勝十二回、オリンピックに四度出場、世界選手権で二度金メダルを獲得した。

その後、三十四歳の全日本選手権

を最後に、競技を引退した。引退後は、勤務先の仕事に集中するつもりだったが、チームの監督を依頼された。

「私の選手時代は、リンクの確保やスケート技術の研究、靴の調整についても自分でやるしかありませんでしたが、今では社会の理解も進みました。これまでの私自身の経験を伝えたり、競技に専念できる環境を整えたりすることでお役に立てればという思いで、引き受けました。」

選手時代、勤務先の仕事と、スケートとの両立生活の中で、今の監督としての姿勢が培われたという。「専業でスケートをしている人はほとんどいません。コーチの採用やリンクの確保など、マネジメントすることがたくさんあります。監督として、選手の指導だけでなく、競技全体を支えようと思いました。」

選手を育てることは、できるだけコーチに任せ、一歩引いた立場でチームを経営している。

「監督として、コーチを育てることを大事にしています。コーチには講習会などに参加して、コーチ法や新しい知識・技術を身につけるように話しています。コーチとしての評価は、選手を人として育てることです。社会の価値観とも離れてはいけません。誰もが、いつかは社会で仕事に専念するときがきます。そのときに困らないよう、スケートだけの選手・コーチにならないように心

がけて指導しています。」

現在は、日本オリンピック委員会の評議員や国際スケート連盟の技術委員、ショートトラックの全日本チームの強化部委員としても活躍している。

「今の目標は、二〇二二年の北京でメダルをとる力をもった選手の育成と、スポーツ文化の裾野を広げることです。東京オリンピックが近づいて、スポーツに対する世の中の関心が高まっています。自国でオリンピックが開催されるのは一生に一度の巡り合わせです。東京オリンピックでも、みんながスポーツというムーブメントに参加できるようにしていきたいと考えています。」

競技を引退した人もスケートができるようにしたいと語る寺尾氏は、今年の四月、マスターズの大会に出場し、十年ぶりに競技に復帰した。寺尾氏は、活躍の場を広げ、日本のスポーツの発展に貢献している。



氏名 寺尾 悟  
生年月日 昭和五十年七月二十五日  
住 所 岡崎市久後崎町



## 一人を救うために

生徒指導指導員  
河合 和広

平成二十九年度「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査結果」によると、全国において、いじめ、不登校ともに過去最高の認知件数となった。学校現場が抱える喫緊の課題である。

Aは、集団の中で過ごすことが苦手、小学校から不登校の状態が続いていた。中学校入学後、新たな環境になじめずに精神的負担が重なり、病院へ通うことが多かった。二年生でも通院生活は変わらなかった。

そこで担任は、不登校対策主任のB教諭と相談し、保護者や病院と情報交換しながら今後の支援について話し合うようにした。こうした病院との連携を継続した結果、B教諭と担任に対するAの信頼度が高まっていった。そんな中、主治医から進路の話題が出たことがきっかけとな

## 成長をみつめて



藤川小学校

教諭 高木あゆ美

A子は難聴のため、補聴器と人工内耳を装着して生活している。

四年生になって、言葉でのコミュニケーションがますます増えると考え、私は、「聞こえ方はどう」とA子に話を聞いた。するとA子は、友達との会話の中で、聞こえにくいところが度々あると打ち明けてくれた。そこで、「みんなにそのことを分かってもらった方がいいね」と提案すると、初めて自分で、みんなの声が聞こえにくいときがあることを伝えた。

ところが、ある日の昼休み、A子が泣いて教室に戻ってきた。「どうしたの」と声をかけても下を向いて黙っている。その後、落ち着きを取り戻したA子に話を聞くと、「友達が話していることが聞こえなかつ

た」と言う。ルールを聞き返さず、分らないまま遊びを続けたことで、仲間とトラブルになったようである。A子は、遊びの流れを止めてはいけないのではないか、自分が聞き返すことで友達に不快な思いをさせてしまうのではないかと心配し、聞き返すことができずにいたのだ。

そこで、「相手の気持ちを大事にしているんだよね。でも、分からないことを聞き返さないのは相手の言葉を大事にしていないことになるんだよ」と諭した。そして、A子と、「分からないときは聞いてほしい」という友達の気持ちについて、一緒に考えた。A子は、友達と一緒に遊びたいからこそ聞いてほしいと思ってくれているとは考えもしなかったと話した。「先生だって、気持ちが伝わらなかつたら寂しい。聞こえないときは、聞き返してくれたらうれしいよ。それで嫌な気持ちになんてならないよ」と伝えた。すると、聞いていいんだ、遠慮しなくていいんだと分かったのか、A子は、ほっとしたような表情になり、気持ちを切り替えられたようだった。

その後、A子は、少しずつ自分から友達と関わることができるようになった。休み時間には友達を誘って元氣よく校庭へ向かい、休み時間が終わると、顔を真っ赤にして教室へ帰ってくる。友達と心置きなく遊び

を楽しんでいることがうかがえた。友達も、「A子さん、今の聞こえたと確認したり、「○○だよ」と説明したりしてくれるようになった。分からないことを自分から友達に聞くことにはまだ抵抗があるようだが、今まで言えなかつた、「聞こえなくて、よく分からなかつた」ということを、私に伝えられるようになった。また一つ、成長したA子の姿が頼もしく思えた。

これから先、A子が友達との関係に悩んだときには、担任としてそつと背中を押したり、一緒に立ち止まって考えたりしながら支援を続けたい。そして、友達とのコミュニケーションを心から楽しめるように、成長を促していきたい。



り、少しずつ登校を前向きに考える姿勢が見られるようになった。

ある日、母親から「Aが少しでも登校したいと言っている」という連絡が担任に入った。B教諭、学年主任、保護者と話し合い、適応教室への登校が決まった。適応教室では、献身的に寄り添うB教諭の姿勢が、Aの緊張した心を和らげたようである。週一日、一時間の登校が始まった。

一か月後、居場所を見つけたAは「登校する回数を増やしたい」と訴えた。そこでB教諭は、スマールステップで進めたいという思いと、本人のやる気を調和させた登校計画をAと一緒に練った。Aは、適応教室に通い続け、登校する自信をつけ、適応教室に通う回数を少しずつ増やした。そして、以前と比較にならないほどの心のエネルギーを蓄え、三期には週四日、適応教室への登校ができるようになった。

今年度、この中学校の不登校生徒数が減少した。それは、不登校対策主任が核となり、教師間の連携を強めることはもちろん、学校と関係機関とが連携を強化したことが大きな要因だろう。子供が不登校になる背景は様々である。そのため、個に合った対策が必要である。一人の子供を救うために我々ができることを日々考えていきたい。

# 子供・家族・地域をつなぐ 「こども食堂」



▲交流しながらの食事

「こども食堂」は、子供の貧困問題へのサポートや、子供だけで食事をする「孤食」を少しでも減らすことをきっかけに、首都圏で始まった取り組みである。そのため、「困難を抱える家庭の子供のための食堂」というイメージをもたれがちだが、現在では、「地域食堂（地域の人の居場所）」としての役割を担っている。

現在、市内六か所に「こども食堂」が開かれている。「こども食堂」に関わるのは、運営者・協賛企業や団体・ボランティア・社会福祉協議会・利用者などである。何もノウハウのないところから立ち上げ、ボランティアと共に運営したり、会社の施設を用いたり、その運営形態は様々である。

「こども食堂」には、善意で提供された食材で作られた温かい料理を食べる子供たちや保護者の笑顔があふれる。取材した市内の「こども食堂」では、食べるだけでなく、子供たちの居場所・地域の人の交流が、確かに見えた。

子供同士、保護者同士、そして、地域やボランティアがつながる「こども食堂」には、地域を強くする活力がみなぎっていると感じた。

多くの人に「こども食堂」の存在を知ってもらい、その魅力を感じてほしい。

名称	住所	日時	大人
十楽こども食堂	滝町十楽8-3	毎月第3月曜 17時～19時	300円
おいでん家	美合町	毎月第2・4火曜 16時～19時	300円
ココカラ	向山町5-10	毎月第3木曜 16時～19時	200円
こども食堂おかざき	井田町鎌研38	毎月第2・4金曜 16時～20時	500円
えほんしょくどう どうぞの店	羽根町長田2	毎月23日 17時～19時	300円
友愛みんなの食堂	欠町清水田6-2	毎月第4水曜 16時～19時	300円

## 市内の「こども食堂」

※令和元年9月10日現在。

※上記すべてのこども食堂は子供無料。

友愛みんなの食堂は、子供・障がい者が無料。

つなぐ

子供 家族 地域



大学生ボランティアと共に  
(おいでん家)



野菜の収穫  
(おいでん家)



絵本の読み聞かせ  
(えほんしょくどう どうぞの店)

## 子供をつなぐ

公園で遊ぶ、宿題をする、作文の書き方を教えてもらう、野菜を収穫する、絵本の読み聞かせを聞くなど、立地や、ボランティアの特技等を生かし、食事以外でも子供が生き生きと活動できる場所となっている。



食事の提供 (こども食堂おかざき)



家族のふれあい (十楽こども食堂)



家族同士の交流 (ココカラ)

## 家族をつなぐ

こども食堂おかざきのオーナーは、「お母さんの休養日だと思って来てくれたらうれしい。子供の笑顔は、親の笑顔があってこそ」と語る。家族同士が子供を通じてつながり、交流できる場でもある。



市の相談役 (社会福祉協議会)



食材の提供 (道の駅藤川 産直部会)



野菜の提供 (市内スーパー)



大学構内で  
(岡崎女子大学)



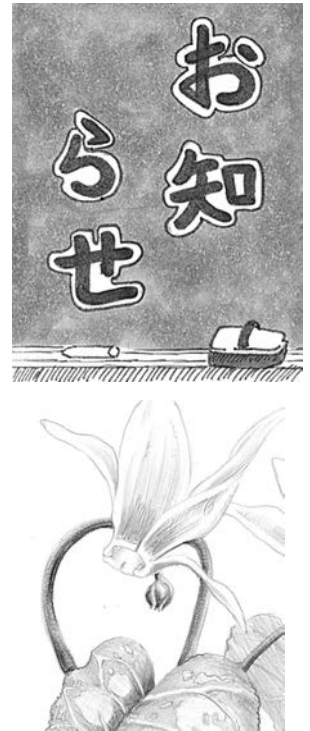
調理ボランティア  
(えほんしょくどう どうぞの店)



障がい者施設の利用  
(友愛みんなの食堂)

## 地域をつなぐ

- 社会福祉協議会：ボランティアの募集、食材の提供などの相談役となる。
- 地域のスーパー・企業・道の駅：旬の野菜等を提供している。
- 調理ボランティア：やりがいを強く感じ、活動している。
- 岡崎女子大学：ゼミ生が中心となり、大学構内で「丘の上こども食堂」を開く。
- 障がい者支援施設：施設を利用し、障がい者への理解を図る。



●教育最新情報

◆令和元年度全国学力・学習状況調査における岡崎市児童生徒の結果について

1 調査分析概要（全国の平均正答率と比較して）

(1) 全体の様子

小学校においては、国語の「話すこと」「読むこと」が「できている」状況である。算数の「数と計算」「図形」「数量関係」は「よくできている」、「量と測定」については「たいへんよくできている」状況である。

中学校においては、国語の「書くこと」が「できている」、「読むこと」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」については「たいへんよくできている」状況である。また、数学については、どの項目も「たいへんよくできて

いる」状況である。英語は「聞くこと」が「できている」「読むこと」「書くこと」が「たいへんよくできている」状況である。

(2) 小中学校別各教科に関する問題の様子（表）

2 岡崎市教育委員会の指導改善等の取り組み

(1) 国語、算数・数学、英語における岡崎市の児童生徒の学力と、学習環境と学力との相関関係を詳細に分析し、学校での授業や家庭での生活習慣等の改善すべき内容を把握します。

(2) (1)の分析結果を受け、その授業改善案等を教育委員会が各学校へ伝え、必要に応じて担当指導主事が学校訪問を行い、改善状況を確認したり、指導したりします。

(3) 各学校で行っている「教

育診断アンケート（学校評価）を利用して、学校や教員が自己評価を行い、日々の授業の成果と課題を明らかにし、新たな授業改善の具体的な対策を立て、取り組むよう指示します。

(4) 教育委員会と学校は、家庭や地域と連携しながら、子供たちの生活習慣や学習環境が学力に反映することを周知し、改善を図る取り組みを行い、総合的な学力の向上に努めていきます。

3 留意点

(1) この調査は、子供たちの学習状況の改善を図るために参考とするものです。

(2) この調査で測定した学力や学習状況は、特定の一部分です。

(3) 学校では、成果と課題を把握し、授業改善に努めます。

(4) 家庭では、得意なこと・不得意なことを知り、また生活習慣の充実を図るなど、児童生徒が学習に意欲をもって取り組める励みや環境づくりをお願いします。

令和元年度全国学力・学習状況調査 岡崎市の分析結果

〈小学校6年生〉

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	<p>できている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>話し手の意図を捉えながら聞き、自分の考えをまとめる力がたいへん優れている。</li> <li>目的に応じて本や文章全体を概観して効果的に読む力が優れている。</li> <li>学年別配当漢字表に示されている漢字を文の中で使う力が弱い。</li> <li>目的に応じて、質問を工夫する力が弱い。</li> <li>話す・聞く能力が高いが、言語についての知識・理解・技能が十分身につけていない児童が多い。</li> </ul>
算数	<p>よくできている</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>示された式の意味を理解する力がたいへん優れている。</li> <li>場面の状況から、単位量当たりの大きさを基に、求め方と答えを記述し、その結果から判断する力がたいへん優れている。</li> <li>加法と乗法の混合した整数と小数の計算を正確にする力が弱い。</li> <li>数学的な考え方が身につけており、特に数量や図形についてよく理解している。</li> <li>数量や図形の問題を解く技能は概ね身につけているが、計算の順序などの技能が身につけていない部分がある。</li> </ul>
学習状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>「ものごとを最後までやりとげてうれしかったことがある」と思う児童は、「そう思わない」児童に比べ、正答率が高い。一生懸命取り組んだ達成感や充実感を味わったことがある児童が、高い正答率を得ている。</li> <li>「人が困っているときは、進んで助けている」児童は、正答率が高い。「いじめはどんな理由があってもいけない」と思う児童は「そう思わない」児童に比べ、高い正答率を得ている。相手の気持ちを想像し、思いやって行動しようとする気持ちのある児童が、高い正答率を得ている。</li> <li>読書については、時間が長いほど正答率が高いというわけではない。家庭学習の時間についても同様の結果が見られる。時間の長さではなく、主体的、効率的に取り組むことが効果を高めると考えられる。</li> </ul>
生活状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話す児童の割合は、全国平均を上回っている。</li> <li>地域や社会に関わる活動に参加している児童の割合は、全国平均を上回っている。</li> </ul>

《中学校3年生》

科	調査結果から捉えられる傾向
国語	たいへんよくできている ・文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉える力が優れている。 ・語の一部を省いた表現について、話や文章の中での適切な活用の仕方を理解する力が優れている。 ・話し合いの話題や方向を捉える力がやや弱い。 ・書かれている内容を正確に読む力はたいへん高いが、自分の考えを書く活用の問題に対してはやや力が弱い。
数学	たいへんよくできている ・数の集合と四則計算の可能性についての理解度が高い。 ・反比例の表から、x、yの関係を式で表す力が優れている。 ・資料の傾向を的確に捉え、判断の理由を数学的な表現を用いて説明する力が弱い。 ・数学的な見方や考え方が身につけており、技能も高い。考えを記述して説明する力にやや弱さがある。
英語	よくできている ・日常的な話題について、簡単な語句や文で書かれたものの内容を、正確に読み取る力が優れている。 ・与えられた情報に基づいて、三人称単数現在時制の肯定文や否定文を正確に書く力が優れている。 ・日常的な話題について、情報を正確に聞き取る力がやや弱い。 ・書かれていることを正確に読み取る力が優れている。情報を正確に聞き取ったり、外国語で表現したりする力がやや弱い。
話すこと	たいへんよくできている ・聞いて把握した内容を踏まえて、会話が続いていくように質問するなど、即興的にやり取りする力が優れている。また、与えられたテーマについて考えを整理し、まとまりのある内容を話す力がたいへん優れている。 ・適切に強勢を置き、基本的な表現を理解して応答する力がやや弱い。
学習状況	・「朝食を毎日食べる」「起床時刻が決まっている」「就寝時刻が決まっている」など、規則正しい生活を送る生徒の方が、高い正答率を得ている。 ・「新聞を読んでいる」生徒は、「読んでいない」生徒に比べ、正答率が高い。また、「読書が好き」な生徒は、「読書が好きではない」生徒に比べ、正答率が高い。様々な事象に興味をもち、情報を得ることに楽しさを感じる生徒の方が、高い正答率を得ている。 ・「家で自分で計画を立てて勉強をしている」「授業で学んだことを、他の学習に生かしている」生徒ほど、正答率が高い。自分に必要なことを考え、主体的に取り組める生徒が高い正答率を得ている。
生活状況	・「人の役に立つ人間になりたい」「自分にはよいところがある」と考える生徒の割合は、全国平均を上回っており、自己肯定感の高い生徒が多い。 ・「家の人と学校での出来事について話をする」生徒の割合は、全国平均を上回っている。

●表彰

- ◆第10回愛知県中学校卓球選手権大会
  - 男子 優勝 矢作北中
  - 女子 二位 北中
- ◆第65回全日本中学校通信陸上競技大会
  - 女子二年一〇〇m 七位 城北中 片山 心菜
  - 女子共通一〇〇mH 十位 翔南中 林 美希
- ◆第40回愛知県ジュニアオリンピック陸上競技大会
  - A男子三〇〇m 二位 葵中 河野 温喜
  - B男子一五〇〇m 優勝 翔南中 天野 啓太
  - C男子一五〇〇m 二位 竜海中 杉田 晃大
  - Cオーブン男子砲丸投 三位 六ツ美中 城間 龍奨
  - Cオーブン男子砲丸投 優勝 福岡中 松田 流輝
  - BC共通オーブン男子走高跳 三位 六ツ美北中 西口 温
  - 共通男子ジャベリックスロー 二位 矢作北中 阿部 泰典
- A女子三〇〇m 二位 六ツ美北中 棧敷真菜美
- A女子走高跳 優勝 六ツ美北中 鈴木 菜美
- B女子一〇〇m 優勝 城北中 片山 心菜
- B女子一五〇〇m 二位 翔南中 林 美希
- B女子一五〇〇m 優勝 六ツ美北中 小嶋 聖来
- C女子八〇〇m 三位 六ツ美北中 鈴木 愛菜
- C女子八〇〇m 二位 竜海中 壁谷 衿奈
- ◆第42回全国JOCジュニアオリンピックカップ夏季水泳競技大会
  - 十一〜十二歳女子五〇M平泳ぎ 出場 六ツ美北中 内山 朝陽
  - ◆JOCジュニアオリンピック全国中学生カヌー大会
    - カナディアン一人乗り 6位 カヤック一人乗り 市川虎之助
    - カヤック二人乗り 6位 カヤック二人乗り 鈴木 彩音
    - カヤック四人乗り 6位 鈴木 彩音
    - カヤック四人乗り 5位 井原結衣・鈴木ひろみ
  - ◆東海小学生陸上競技大会
    - 女子コンバインドA 四位 豊富小 平塚 玲音
- ◆第74回東海吹奏楽コンクール
  - A編成 銀賞 北中
- ◆第86回NHK全国学校音楽コンクール愛知県コンクール
  - 小学校の部 金賞(東海北陸大会出場) 梅園小
  - 中学校の部 銀賞 六ツ美北中
  - 銅賞 竜海中
- ◆第86回NHK全国学校音楽コンクール東海北陸ブロックコンクール
  - 小学校の部 銀賞 梅園小
- ◆愛知県小学校バンドフェスティバル
  - 金賞(東海大会出場) 愛知県教育委員会賞
  - 朝日新聞社賞 竜美丘小
  - 銀賞 城南小
- ◆愛知県教育文化奨励賞
  - 知事表彰 梅園小
- ◆第26回コカ・コーラ環境教育賞
  - 活動表彰部門 優秀賞 東海中 自然科学部
- ◆第49回愛知県野生生物保護実績発表大会
  - 教育委員会賞 河合中 自然科学部

・カ  
ツ  
ト  
形  
埜  
小  
大  
竹  
紗  
弥  
加

### 甲山文学碑 (昭和56年)

写真提供：甲山中学校

昭和五十六年、文学への関心、感受性を育もうと、校内に整備された遊歩道を中心に、詩、短歌、俳句などの文学碑六十六基を設置した。これらは、当時の「豊かな情操と逞しい想像力」の育成をめざす甲山中教育の大切な柱、「心を育てる環境」の一つとして位置づけられていた。

当時作成した冊子に、「僕の最も好きなのは校門のわきにある高村光太郎の詩である。校門を入るとき、いつも僕を見つめ語りかけているような気がする」という生徒の言葉が残っている。

岡崎市内の多くの学校では、石碑や書などに、先人の言葉や思いを刻み、児童、生徒に生きる力を与えている。



「友と過ごした旅館の夜」。修学旅行の楽しい思い出である。「いろいろな見学や体験をしたのに」と言いつつ、担任はうれしそうだ。

喜びを共有できる仲間がいる幸せこそ、本当に感じさせたかったことだからであろう。

## ど ホ ツ

### 霜 月



友と共有する楽しい思い出 (岡崎小)

放課後のおなかを満たすおいしいご飯と、楽しそうな子供の姿。

孤食を少しでも減らそうと、地域の大人たちが立ち上がり、市内にも広がってきた子ども食堂の一コマである。

愛情こもった温かな笑顔が、最高の調味料になっている。

「つらいとき、大変なとき、緊張するときほかの人も同じ。それよりも、どんなガッツポーズをしようかと楽しいことを考えることが大切」と、寺尾氏は、行動をプラスにするアドバイスをくれた。

大舞台で活躍してきた第一人者は、心の整え方も一流である。



\* 日本を減ぼす教育論議 岡本 薫  
講談社現代新書 ￥760

#### 心に残った一文

「目標設定」とは常に「選択」であり、「目指さないもの」を議論することの方がむしろ重要なのである。

木村泰子氏、工藤勇一氏の著書を読むと、二人に共通する発想の原点に、岡本薫氏が現れる。

OECDの国際公務員として先進諸国の比較研究に深く関わった著者は、日本がもつ独特の発想を長短織り交ぜて指摘し、特に教育論議に欠如している視点に鋭く言及する。

一例として、教育論議にしばしば登場する「人間力」などの抽象的なスローガンは誰も否定できない一般的な価値を示すが、具体的な「目指すもの」「目指さないもの」がはっきりしない。「目指さないもの」を具体的に示すことで、目標が明らかになるのである。

\* 教育論議を「かみ合わせる」ための35のカギ 岡本 薫  
明治図書 ￥2,300

\* 発達障害のある子のサポートブック 榊原洋一・佐藤暁  
学研教育みらい ￥2,000

\* 日本文学の大地 中沢新一  
角川ソフィア文庫 ￥960

大門小 石原 真吾